



## 企画記事 座談会 独立技術士の活躍

**聞き手:** 京都大学技術士会の会員には企業内技術士が多くいますが、将来は独立して活躍したいと考えている会員もたくさんいます。しかし独立技術士の方がどんなことをされているのかよく分かっておりませんので実情にかなり興味を持っています。そこで、関西で独立技術士として活躍されています3名の方に、独立開業した経緯、現在の業務の内容と苦労している点、今後独立を考えている方への助言などについてお話を伺う機会をいただきました。まずは独立開業した経緯についてお話をお願いしますでしょうか。



綾木 光弘氏

**綾木:** 私はもともと製紙会社に勤めていました。そこでは主に研究開発をやっておりました。54歳の時に実家の事情で早期退職をし、その年に技術士試験を受けました。まだ若いのでいろいろなことができるはずだと思い、開業しました。

**上田:** 私は機械メーカーに勤めていました。会社では研究開発、環境マネジメント、工場などでの現場業務を担当し、定年まで勤め上げました。在職中に技術士の資格を取りましたが、その時は独立を考えていたわけではありませんでした。退職した後に京都大学大学院ポストドクターフェロー、環境ISOの審査員などをやりながら技術士として独立しました。



大坪 利行氏

**大坪:** 私は航空会社在职中に技術士資格が必要なことになり取得しました。会社を辞めて、その後何かやろうとした時に、一体自分の証は何になるのだろうかと思っていました。技術士試験の面接の最後に独立しますと答えましたし、ほかの技術士の仲間といろいろ取り組んだこともあり、独立開業をしました。

**聞き手:** 次に、現在の業務の内容と苦労している点をお聞かせください。

**綾木:** 日本技術士会近畿本部の部会長や委員など、大学非常勤講師、環境カウンセラーなどの活動のほか、NPO 法人話し方 HR 研究所に所属し話し方教室の講師もやっています。話し方教室は企業に勤めていた頃に参加していて、2年間勉強した後に講師

の道を目指しました。大学は講師として企業経験者の体験の内容を重視していることもありますし、教育委員会からの要請により小学校で理科実験の特別授業を担当することもあります。



上田 泰史氏

上田：私は会社在职中に地球環境に関する業務を行っていましたので、現在も定期的に環境 ISO マネジメントシステムの審査員をやっています。技術士第二次試験受験指導のスクーリングや添削指導を行っております。関西大学都市環境工学部非常勤講師もしております。また専門誌執筆を行い、化学物質サプライチェーンマネジメント関係のコンサルタントの依頼を受けることもありました。その際に集客や契約の難しさを痛感しました。京都大学大学院ポスドクフェローを務めて、大学関係にも首を突っ込んでいた経験から徳島文理大学教授になることになりました。

大坪：東京では独立の技術士だけで作っているグループがあり、いろいろな方がおられました。倫理違反なくちゃんと能力を活かしていくことが身に着いた下積み時代だったなと思います。関西に戻ってきまして、一人ではなかなかできないところ、上田さんと一緒に仕事をしました。これが技術士の仕事だと確信し、すごく自信が付きました。そういう成功体験から技術士会に所属している優秀な仲間と一緒に仕事をするようになりました。一度聞いただけでよく分からない内容も知りませんと言わず、しばらく時間をもらってよく調べれば大抵のことはできます。分野に関係なく一生懸命受けるようになっています。

聞き手：最後に今後独立を考えている方への助言をお願いします。

綾木：最初から仕事がいっぱいあるわけでは絶対ないと思います。準備が必要だと思います。私は講演を頼まれたらできるだけ出るようにしています。ここに来ていた人とネットワークができて、そこから次の仕事が入ってくるようになりました。短期的に考えて、独立してからすぐ仕事がないなというふうに思わないで、もう少し長い目で見てネットワークを張ってチャンスを待つということです。

上田：まずは自身の専門分野を生かす活動が重要です。それを積極的に専門誌に投稿するとか、講演の依頼があれば絶対断らないとか、とにかくやることで色々と繋がってきます。そうやって地道に実績作りを続けると自分を必要としてくれる世界が見えて広がってきます。また今所属されている会社に企業内技術士の方がおられたら、誰かが声かけてくれるのを待つよりも、企業内技術士会がないのであれば自分で立ち上げて自らネットワークをつくっていく方法もあるかと思います。自分ひとりでできることは限られています。他人の知恵、いろいろなネットワークで、自分を必要としてくれるために自分の強みを伝えられる何かを持ち続けることができればよいかと思います。

大坪：企業を離れて、いろいろな形態がありますが、技術士資格をせっかく持っている人は独立を目指すチャンスがあります。いろいろなところに顔を出すことも一つですけど、我々のようなメンバーといろいろ話して、参考にしてもらえばいいかなと思っています。ただ、いろいろな人を見ているけれど、独立した瞬間は順調でも失速することもあります。いろいろな選択肢があります。自分に合うことがきっとあるはずなのでそこを伸ばしていくというのがいいかなと思います。

**聞き手：**綾木様、上田様、大坪様、たくさんのお話しをしていただきましてありがとうございました。とても参考になる有意義なお話しが聴けました。会員のみなさまにも参考にさせていただければ幸いです。

#### 独立技術士の紹介（敬称略）

**綾木光弘**(本会参与、森林部門・総合技術監理部門)  
1978 年農学研究科修了後、王子製紙に入社。約 30 年間にわたり研究開発に従事。実家の農業を継承するため 50 歳代半ばで早期退職。退職後に技術士試験合格し綾木企画を設立。大学非常勤講師や日本技術士会の活動、環境カウンセラー、話し方教室運営にも携わり、幅広く活躍している。

**上田泰史**(本会幹事、環境部門・総合技術監理部門)  
1983 年農学研究科修了後、ダイキン工業に入社。研究業務、本社マネジメント系、工場現場、地球環境関係に従事。在職中に社会人博士課程を修了し、博士(工学)号取得。その後技術士試験に合格。定年退職後再雇用を経て技術士として独立。京都大学大学院ポスドクフェロー、NPO 法人理事、ISO 審査業務等に携わり、令和 4 年 4 月より徳島文理大学教授に就任。

#### 大坪利行(本会幹事、経営工学部門)

1978 年工学研究科修了後、川崎重工業に入社。イラク駐在でプラント事業などに従事後、日本航空に転職。技術研究所勤務などをしながら技術士試験に合格。関連会社への出向を経て日本航空を特別早期退職する。国際先端技術コンサルティングを設立し、日本技術士会の活動や海外の数多くの案件など精力的に活躍している。

**聞き手** 今西秀公、宮嶋直樹（いずれも本会幹事）

令和 4 年 3 月 9 日 京都市内某所とオンラインによる

## 第 14 回講演会開催



家入 龍太氏

京都大学東京オフィスでの対面および Zoom、YouTube でのオンライン併用により、京都大学技術士会が主催する第 14 回講演会（イブニングセミナー東京）が開催されました。この行事は、当会の主要事業の一つである会員の継続研鑽を目的として企画されたもので、対面、オンラインを併せ 160 名を超える申し込みがありました。また、オンライン開催においては、全国北海道から福岡県まで、また海外からも 2 名の参加がありました。

下村泰造 副代表幹事(工学研究科・1994 年修了)が司会進行し、冒頭、当会代表幹事の樋口義弘より、開会挨拶のあと、今回のご講演を頂いた講演者である建設 IT ジャーナリスト(株)建設 IT ワールド代表取締役 家入龍太 様(工学研究科・1985 年修了)とのこれまでのエピソードおよびご紹介を経て、講演会が始まりました。

講演テーマは『人手不足、with コロナのピンチが建設 DX を加速する～AI・ロボットとの協働で実現する働き方改革～』であり、家入氏が日頃から注目されているアフターコロナの建設業に関して、様々な観点から今後の建設業における DX (デジタルトランスフォーメーション)をテーマにご講演いただきました。講演の締めくくりとして、家入氏よ

り『「タイ」と「タライ」で建設 DX へ』という分かりやすいキャッチフレーズのもと、デジ「タイ」ゼーション（情報の電子化）とデジ「タライ」ゼーション（デジタルによるビジネス変革）の両輪を回すことにより、建設 DX を推進し、自社業務に即した手法を導入することで DX（変革）を実感することが重要とのご教示を頂きました。講演会の最後には会場、オンラインの両参加者から多数の質問も上がり、聴講者から多くの共感を呼ぶ盛会なご講演となりました。



講演会の様子

#### 【参加者の感想】

ご講演者のジャーナリストの経歴からの建設 DX の捉え方は、俯瞰的であり、我々 DX の実務者が近視眼的になりがちな視野を広げる役割を果たしていただけたと考えます。また、DX への取り組みにおいて情報量が重要と想定されることから、様々な動画を活用した事例紹介は、聴講者にとって建設 DX の実際を把握する上で、助けになったと思われます。【建設部門 市森 友明（正会員）】

最初に、樋口代表より家入氏の紹介があり、1982 年学部卒の同期で、入学時第 2 外国語ロシア語を専攻したのが家入氏 1 人だったとのエピソードで会場が湧くと同時に、講演会への期待のボルテージが上がりました。

まず、人口推移のグラフが映し出され、これまで建設業は人に頼りすぎなので、手始めに「移動のムダ省く」ことを提案されました。現場所長は労働時間の 44%も移動に使っているそうです。「え、そん

なに」と思いましたが、確かに振り返ると、まず事務所から現場に移動し、巡回を終えてまた事務所に移動、客先への打合せも同じ。なるほど先ほど見たスライドの通りです。

その後、AR グラス、遠隔臨場エコモット、アバターロボット「Log Kun」、架線近接目視等のスライドが矢継ぎ早に映し出され、デジタルツインーデジタルの双子ーを使って、現場の様々な情報が席に居ながら得られる仕組みが着々と築かれていることをあらためて知りました。

特に驚いたのは、iPhone 12Pro で点群データ計測可能ということです。5 年ほど前、鉄道現況に図面を落とし込むために、測量会社を使って 3D スキャナーで夜間 3 日間計測しました。それが今後、社員が iPhone で作ってしまう時代になるかもしれないのです。

「会ってしゃべらないと」「現場を見ないと」と思っていたのですが、今の技術によれば、オンラインで行えることは非常に多いことを実感しました。帰宅後、国土交通省 PLATEAU を触ってみました。今や、特別な機械を使わなくても驚くべきこともネットとパソコンできるのです。講演会をきっかけに、様々なツールに触れてみようと思うとともに、まずは自分たちの意識改革が必要だと改めて感じました。【建設部門 辻 正博（正会員）】

## 第 23 回 技術士を目指そう説明会開催

2022 年 3 月 5 日（土）、京都大学技術士会主催の「技術士を目指そう第 23 回説明会」が開催され、技術士の受験を考えている京都大学の卒業生 10 名が参加しました。本説明会は当会の主要事業の一つである本学の学生、職員、卒業生に対する技術士資格の取得支援を目的に定期的に開催しているもので、コロナ禍の状況を受けて、昨年度より受講者、講師全員が Zoom によるオンラインで参加する形式で開催しております。

説明会の第 1 部では、技術士制度の説明に続き、大坪利行氏（工学研究科、1978 年修了、経営工学部門、当会幹事）、築地功（土木工学科、1987 年卒、建設部門、当会幹事）、竹内将人氏（エネルギー科学研究科、2004 年修了、化学部門）の各分野で活躍する卒業生技術士 3 名より、それぞれの体験を交えた技術士資格取得のメリットに関する講演を行いました。続いて試験制度の説明と京都大学技術士会の活動状況の紹介がありました。また第 2 部として、参加者が取得希望部門別のセッションに分かれて、部門別相談会が実施されました。



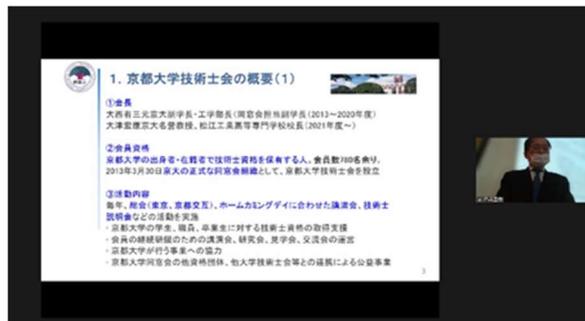
オンラインでの開催状況

## 第 24 回 技術士を目指そう説明会開催

第 24 回「技術士を目指そう」説明会が 2022 年 4 月 28 日（木）、京都大学桂キャンパス桂ホールと Zoom を用いたオンラインの併用で開催され、講師 10 名、技術士の受験を考えている京都大学の学生さんや卒業生合計 25 名が参加しました。

本説明会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い第 21～23 回はオンラインのみでの開催になっておりましたが、今回は会場での開催とオンライン併用で実施いたしました。

綾木光弘幹事（農学研究科 1978 年修了）の司会進行の下、京都大学技術士会副会長で京都大学工学



オンラインによる説明状況

研究科の高橋良和教授（工学研究科 1996 年修了）の開会挨拶のあと、田岡直規副代表幹事（工学研究科 1983 年修了）による京大技術士会の紹介、佐伯賢一幹事（工学研究科 1994 年修了）による技術士制度の概要の説明がありました。

これに続き、千田琢幹事（機械、総合技術監理部門）、山崎洋右幹事（機械部門）、岩住知一幹事（建設部門）、仲矢順子幹事（建設、森林部門）の各分野で活躍する 4 名より、それぞれの体験を交えた技術士資格取得方法や取得後の活動やメリットなどに関する講演を行いました。

また、講師陣から一通りの説明の後、会場及びオンライン上で、講師と参加者が取得希望部門別のセッションに分かれる分科会では、非常に活発な質疑応答が実施されました。

今回も「博士と技術士は車両の両輪」ということを P R し、「1 次試験合格後の準会員としての京都大学技術士会への入会」も呼びかけました。桂ホールでは、初めてのオンライン併用での開催となりましたが、受講者の評価も高く、確かな手ごたえを感じました。



会場風景

## 会員の自由投稿①

### 技術士会に一言

平澤 征夫



令和 2 年 6 月 15 日、コロナ蔓延の最中に日本技術士会から名誉会員に推挙されました。懇親会は開かれず、昨年 11 月 29 日に令和 3 年度の新名誉会員と合同で行われました。各業界で長年活躍されてこられた先輩技術士の方々が一言ずつ述べておられました。

私は、40 年近い教員経験に照らし、現在の日本技術士会の現状に不満を述べさせていただきました。また、統括本部の修習技術者支援委員会・防災支援委員会および中部地域本部の建設部会・防災支援小委員会・愛知県支部防災委員会等での活動では、常に次の 2 点を皆様に申し上げて参りました。

- ① 技術士会に参加しても、苦勞は伴いますが、「お金も名誉も」得られません。
- ② その代わり、お金では得られない「将来の人生を生きる糧」を得られます。

【1971 年工学研究科博士課程（学修）、技術士（CPD 認定）建設部門、中部大学名誉教授】



## 会員の自由投稿②

### 総監択一の電子書籍を出版！

近藤 一寿



令和 4 年 4 月に Amazon から 1100 円で販売しています。総監キーワードの周辺情報や深掘り情報を頭に入れるのが高得点のコツです。皆様のお近くに総監受験生がいらっしゃいましたら、ぜひご推薦お願いいたします。



択一式が苦手なあなたも合格できる!!

技術士第二次試験  
総合技術監理部門

択一 8割獲得術

近藤 一寿  
技術士(総合技術監理部門、建設部門、環境部門)  
監修 森 浩光 技術士(総合技術監理部門、建設部門)

令和3年度・総監択一 8割得点の  
合格者が語る総監択一必勝法!!

手書きノートであなたの脳に総監キーワード  
のネットワークを張り巡らせよう!

(販売サイト: [www.amazon.co.jp/dp/B09Y9F32J7](http://www.amazon.co.jp/dp/B09Y9F32J7))

【1992 年工学部合成化学科卒、総合技術監理部門・建設部門・環境部門、日本国土開発（株）】

## 会員の自由投稿③

### 企業から大学教員へ

上田 泰史



ダイキン工業を定年し雇用延長後、退職して京都大学でシニア・フェローとして留学生の研究支援業務を行いました。更に、技術士業務や環境品質 ISO 審査の仕事を行い、一つの組織に所属しない生き方を満喫することができました。

この期間中の講演や専門誌執筆依頼には全て対応いたしました。

京都大学と上田技術士事務所業務を経て、2022 年 4 月 1 日から徳島文理大学人間生活学部教授として勤務しております。専門分野は環境工学で、地球環境保全論、住生活環境学、福祉住環境論、家庭電気・機械論、住環境設備論および専門ゼミを担当しています。

講義準備が大変で自転車操業状態です。新一年生担任とオープンキャンパス土日開催の対応、教授会、各種学内委員会と大変忙しい毎日を送っております。

【1983 年農学研究科修了、技術士（環境・総合技術監理部門）、徳島文理大学教授】



## 編集後記

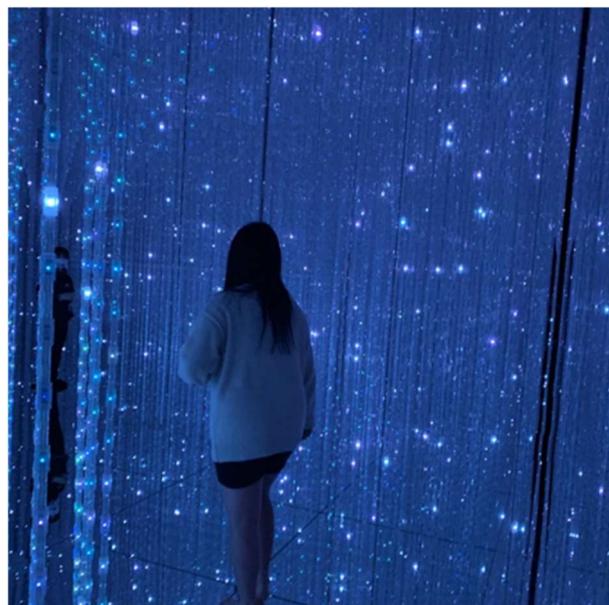
今回の広報 11 号も会員同士の交流拡大をテーマに紙面を作りました。お近くに参加ご希望の同窓技術士の方がいらっしゃれば、京都大学技術士会ホームページの専用フォームからお申込みをご案内ください。

<http://ku-pe.net/entry2.html>

専用のホームページからも随時情報発信していますので、こちらもご覧になってください。

<http://ku-pe.net/>

この春、家族旅行で豊洲にあるチームラボプラネッツ TOKYO DMM.com に行きました。娘が大好きなジャニーズアイドルの撮影が行われた場所らしく、幻想的な空間が広がっていました。



コロナ明け初めての職場の懇親会で、年下の社員の多くはアップルウォッチを巻いていました。何も知らない自分は、その未知の時計のことを色々と教えてもらいました。

自分は本当に何も知りません。今年の目標は「下問を恥じず」にして、若い人との交流を通じて自分の世界を広げていきたいです。

本会においても、会員の皆様と直接会って、お話しできることを楽しみにしています。（了）